

水稻「愛知 135 号」の生産拡大に向けた現地適応性の検討

1 対象

重点対象 6 経営体

2 背景

水稻高温登熟耐性・早生熟期品種「愛知 135 号」が育成され、令和 7 年度の一般栽培開始に向けて令和 4 年度から県と経済連、農協が連携し現地栽培の拡大を行っている。白未熟粒が発生しにくいことによる高品質化や（図 1）、コシヒカリとあいちのかおりの間に作付できることによる作業分散を目的に、本年度は新たに 3 経営体が栽培に取組んだ。継続栽培 3 経営体と合わせ、6 経営体で当該品種の現地適応性を検討した。



玄米外観品質の比較（左：愛知135号、右：あさひの夢）
愛知135号の方が大粒で白濁する粒が少なく、透明感と光沢が得れる。

図 1 愛知県農業総合試験場 HP から

3 活動の内容

(1) 慣行品種との比較調査は設置

4 経営体は早生品種のゆめまつりと、2 経営体は中生品種のあいちのかおりとの比較調査を行った（図 2）。食味を向上するため多肥栽培としないよう指導し、AgriLook による予測と黄化程度を見ながら適期に収穫ができるよう指導を行った。

(2) 生育調査結果

生育調査結果（表 1）について栽培経営体に説明を行った。精玄米重（坪刈による単収）はゆめまつりより多く、あいちのかおりより少なかった。整粒歩合はゆめまつりよりかなり高く、あいちのかおりよりも高かった。各経営体の 135 号に対する評価を聞き取りした。



図 2 愛知 135 号の生育調査

表 1 生育調査結果

品種	出穂期	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	精玄米重 kg/10a	整粒歩合※ %
	月日					
愛知135号	8/11	89.7	22.5	382	541	83.2
ゆめまつり	8/10	77.2	20.1	387	456	53.1
あいちのかおり	8/24	93.6	21.4	408	604	71.3

※整粒歩合：米の外観品質を見極める基準のひとつで、主食用米では 70%以上を一等米としている。

4 活動の成果

全ての経営体が「品質はゆめまつりより優り、特に白未熟粒が少なく米がきれいである、品質向上や作期分散になる。収量は同等以上である。」と評価し、現地適応性があると考えられた。また、農協による農産物検査結果も全経営体で 1 等であった。

個別経営体での栽培結果を基に、令和 7 年度の一般栽培に向けて産地への普及を図るため、今後は適正施肥量などの現地試験を行っていく予定である。